

お宝情報13：負い縄そうめん

提供者 Rさん

香川県の小豆島には、400年も前から伝わる「負い縄そうめん」があります。「負い縄そうめん」は、その年に亡くなった人を迎える初盆に、そうめんの細い束を編んで仏壇の正面を幕のように飾る風習です。先祖の霊が旅立つとき、お供え物をそうめんでは背負って旅立つ姿を想像した呼び名だということです。

受け継がれている「七宝（しっぽう）繫（つな）ぎ」の編み方は特長があり、七宝は仏教に伝わる金、銀、瑠璃（るり）など7つの宝物を表し、すそにそうめんを垂らします。乾燥前の長いそうめんを乾かないうちに編み上げていきます。

★あぐりんコメント：

のれんのように、網目の模様が美しい負い縄そうめん。これからも小豆島ならではの風習を伝承して行ってほしいものです。